

SENZOKU GAKUEN COLLEGE OF MUSIC



室内楽セレクション・準セレクションチーム
シルバーマウンテンコンサート 2022

2022年 9月25日(日)

開演 14:00 (開場13:30)

会場 シルバーマウンテン 2階

【主催】 洗足学園音楽大学・大学院

新型コロナウイルス感染症の 感染拡大を防ぐためのお願い

- ・ マスク着用の徹底、こまめな手指消毒、手洗い、咳エチケットの励行にご協力ください。
- ・ 大声や対面での会話はお控えください。
- ・ 演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
- ・ 休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
- ・ 客席内やロビーでのご飲食はお控えください。
- ・ 出演者への面会はできません。出演者への花束、プレゼントもご遠慮ください。
- ・ 万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。



Greeting

本日は、洗足学園音楽大学「室内楽セレクション・準セレクションチーム シルバーマウンテンコンサート2022」にご来場頂き、誠にありがとうございます。

本日演奏するチームは昨年度、厳しい2回の審査により選抜された学生のグループです。編成、楽器種が異なる魅力あるプログラミングを我々、室内楽を担当する教員や履修学生も楽しみにしております。

新型コロナ禍で音楽関係も様々な制約を受けてきました。学内の練習にも「パーテーション」を設置してソーシャルディスタンスをとるなど工夫を凝らして練習を重ねてまいりました。その中で個々の音楽を相談し合い、また時には意見をぶつけ合い重ねてきた練習の成果を、存分に発揮して頂きたいと思います。

ご来場の皆様方には、若く瑞々しい音楽のアンサンブルにどうぞ、暖かい拍手と激励のお言葉を送って頂く事をお願い致します。

室内楽委員会議長
フルート教授
渡部 亨

Program



第1部

準セレクションチーム
ホルン四重奏

第2部

準セレクションチーム
金管六重奏



第3部

セレクションチーム
木管五重奏



準セレクションチーム

第1部 ホルン四重奏

山本 海音 (3年)
Kaine Yamamoto

直田 真潮 (3年)
Mashio Naota

石野 奈々 (3年)
Nana Ishino

種子田 佳歩 (3年)
Kaho Taneda



Program

1st 石野 奈々 2nd 種子田 佳歩 3rd 直田 真潮 4th 山本 海音

M.プレトリウス／バロック組曲

Michael Praetorius (1571-1621) // Four Pieces

- I. ガイヤルド Gaillarde
- II. クーラント Courante
- III. アリア Aria
- IV. パスピエ Passepied

1st 直田 真潮 2nd 石野 奈々 3rd 山本 海音 4th 種子田 佳歩

K.ターナー／ホルン四重奏曲 第1番

Kerry Turner (b.1960) // Quartet No.1

- I. アレグロ Allegro
- II. アンダンテ Andante
- III. アレグロ コンブリオ Allegro con Brio

Program Notes

M.プレトリウス／バロック組曲

ミヒャエル・プレトリウス（推定1571-1621）はドイツの作曲家であり、オルガニスト、音楽理論家。ドイツ東部のトルガウのラテン語学校へ、1582年にはフランクフルト・アン・デア・オーダーに移り哲学と進学を学ぶ。その後、ツェルプストのラテン語学校に進み、1587年からはフランクフルトのマリア教会にてオルガニストとして活動を始める。1613年-1616年までドレスデンのザクセン宮廷に仕え、ヴェネツィア楽派の複合唱様式による最新のイタリア音楽を演奏した。イタリアのオルガニスト兼作曲家のジョヴァンニ・ガブリエーリ（推定1554-1612）のようなヴェネツィア楽派の作品を熟知していたおかげで、プレトリウスはその後教会コンチェルト様式を発展させることができた。また、プレトリウスはドイツのプロテスタントの重要な作曲家の1人であり、プロテスタントの賛美歌の発展において大きな役割を担った。

この曲は「ガイヤルド」「クーラント」「アリア」「パスピエ」の4楽章で構成されている。全体的に和音の美しい曲となっており、讃美歌のような曲調を感じることができる。

ホルン 3年 山本 海音

K.ターナー／ホルン四重奏曲 第1番

ケリー・ターナー（b.1960）はアメリカ生まれのホルン奏者。マンハッタン音楽学校でディプロマを取得し、シュトゥットガルト音楽芸術大学ではヘルマン・バウマンに師事。卒業後はルクセンブルク・フィルハーモニー管弦楽団の奏者に就任するなど、国際的な活動をしている。また、アメリカン・ホルンカルテットにも所属しており、作曲活動も行っている。

この曲は1986年に国際ホルン教会（The International Horn Society）のコンペティションにて入賞をした。

I. アレグロ 軽快な1stホルンの旋律から始まり、様々な拍子に移り変りながら曲が進行する。

II. アンダンテ ゆったりとした旋律が流れ、それが次第に速く移り変わっていく。

III. アレグロ コンブリオ 細かい16部音符が多く1楽章以上に軽快に曲が進行する。

曲全体を通して和音が重要となっており、高度なアンサンブル力を求められる曲となっている。

ホルン 3年 山本 海音

準セクションチーム

第2部 金管六重奏



高木 美雨 (Tp.4年)

Miyu Takaki

神野 葵 (B.Tb.4年)

Aoi Jinno

佐藤 俊輝 (Hr.4年)

Toshiki Sato

吉田 怜生 (Tub.4年)

Reo Yoshida

石倉 雄太 (Euph.4年)

Yuta Ishikura

溝口 大輔 (Tp.4年)

Daisuke Mizoguchi

Program & Program Notes

P.スパーク / 宇宙の音楽

Philip Sparke (b.1951) // Music of the Spheres

P.スパーク / 宇宙の音楽

フィリップ・スパークは1951年にイギリスのロンドンで生まれる。幼い頃からピアノ、ヴァイオリンのレッスンを受け、王立音楽大学ではトランペット、作曲を学ぶ。多くのブラスバンド、吹奏楽作品を作曲し、自らブラスバンドの曲を吹奏楽に編曲も行う。

この曲は2004年5月にイギリスで開催された金管バンドのコンテスト、ヨーロピアン・ブラスバンド選手権で演奏するため、ヨークシャー・ビルディング・ソサエティ・バンド（現：ハモンズ・バンド）の委嘱により作曲された。哲学者であり数学者でもあるピタゴラスの「宇宙が音楽を奏しており、それがこの世の調和をもたらしている」という「天球の音楽」を元に作曲された。ピタゴラスは、きれいに響く音程は単純な整数比であらわせることを発見し、現在使われているものの基本となる音程を決めた人物。フィリップ・スパークはピタゴラスの「太陽を中心とする天体は、人間の耳には聞こえない振動数の音によって調和が保たれている」という説に共鳴して、宇宙の変化していく様子を音に表した。静かなホルンのソロで始まる「 $t=0$ 」は、この世は全てゼロであったと示す。大爆発と共に宇宙の誕生を表す「ビックバン」、数ある惑星の中で生命を支えている地球を表す「孤独な惑星」、時に美しく時に危険である「小惑星群と流星群」、様々な存在が宇宙全体で音を奏でているという「宇宙の音楽（天球の音楽）」。ピタゴラスが生み出した調和を意味する言葉「ハーモニー」を元にした「ハルモニア」、そして最後は宇宙がどのように進んでいくのか、見えない未来に対しての「未知」。以上の七つの楽章が途切れることなく演奏される。

トランペット 4年 高木 美雨

セレクションチーム

第3部 木管五重奏



梅崎 真綾 (Fl.4年)

Maya Umezaki

笠 歌純 (Cl.4年)

Kasumi Ryu

宮本 菜摘 (Ob.4年)

Natsumi Miyamoto

平川 真鈴 (Fg.4年)

Marin Hirakawa

佐藤 俊輝 (Hr.4年)

Toshiki Sato

Program

F.プーランク / 「3つのノヴェレッテ」より 第1番

Francis Poulenc (1899-1963) // Trois Novelettes No.1

M.ラヴェル / 組曲「クーブランの墓」

Maurice Ravel (1875-1973) // Le Tombeau de Couperin

- I. プレリユード Prelude
- II. フーガ Fugue
- III. メヌエット Menuet
- IV. リゴドン Rigaudon

G.リゲティ / 木管五重奏のための「6つのバガテル」

György Ligeti (1923-2006) // Sechs Bagatellen

- I. アレグロ コンスピリート Allegro con spirito
- II. ルバート - ラメントーソ Rubato - Lamentoso
- III. アレグロ グラツィオーソ Allegro grazioso
- IV. アレグロ ルヴィド Presto ruvido
- V. アダージョ - メスト (ベーラ・バルトークを追悼して)
Adagio - Mesto (Bela Bartok in memoriam)
- VI. モルト ヴィヴァーチェ - カプリチオーソ Molto vivace - Capriccioso

J.イベル / 木管五重奏のための「3つの小品」

Jacques Ibert (1890-1962) // Trois pièces brèves

- I. アレグロ Allegro
- II. アンダンテ Andante
- III. アッサイ レント - アレグロ スケルツァンド
Assai lent - Allegro scherzando

Program Notes

F.プーランク／「3つのノヴェレット」より 第1番

フランシス・プーランク（1899-1963）はフランス作曲家、ピアニスト。ダリウス・ミヨーやジョルジュ・オーリックも在籍していたフランスの作曲家集団「フランス6人組」の1人として知られ、特に器楽作品に多くの名曲を残した。厳格なクリスチャンであったため、彼の宗教作品は非常に重々しい作風の反面、軽快さや熱く心情を揺さぶられるものまで多種多様なフレーズの数々から「フランスのエスプリ」とも呼ばれる。

この曲は20代の時に書かれた第1番、第2番と、そこから約30年後に書かれた第3番がまとめられたピアノ曲集で、今回は第1番を木管五重奏版で演奏する。8分の3拍子、ハ長調による軽快で爽やかな響きで主題が始まり、徐々に楽器が増えて厚みを増す。短い曲ながらも喜びや憂いなど様々な表情が見える曲となっている。

ファゴット 4年 平川 眞鈴

M.ラヴェル／組曲「クーブランの墓」

ジョゼフ・モーリス・ラヴェル（1875-1937）はフランス南西部、バスク地方のシブールで生まれる。印象主義の作曲家。

この作品はラヴェルの最後のピアノ独奏曲で、第一次世界大戦で戦死したラヴェルの友人に向けての追悼組曲である。原曲は6つの舞曲からなるが、木管五重奏版ではその中から1、2、5、4番を演奏する。全体的に簡潔で明るい雰囲気であるが、斬新な和声を使用することにより透明感や色彩感を出している。

第1曲 プレリユード（ジャック・シャロル中尉に悼んで） 16分の12拍子で、水が流れるように16分音符のパッセージが絶え間なく演奏される。

第2曲 フーガ（ジャン・クリュピ少尉を悼んで） 4分の4拍子の3声のフーガ。

第3曲 メヌエット（ジャン・ドレフュスを悼んで） ラヴェルのメヌエットの中でも特に名曲と言われている。中間部にミュゼットを持つシンプルなメヌエット。

第4曲 リゴドン（ピエール、パスカル・ゴードン兄弟を悼んで） プロヴァンス地方を起源とする活発な民俗舞曲。

オーボエ 4年 宮本 菜摘

Program Notes

G.リゲティ／木管五重奏のための「6つのバガテル」

ジェルジュ・リゲティ(1923-2006)はルーマニアのユダヤ系ハンガリー人の家に生まれる。第二次世界大戦の折には、家族はバラバラに強制収容所へ入れられ、父と弟は命を落とした。戦後、リゲティはハンガリーにあるブタペスト高等音楽学校で音楽を学んだ。1949年同音楽院を卒業、翌年から母校で和声や対位法などを教えながら、ルーマニアの民謡を採集し創作の基にする事なども行った。1956年のハンガリー動乱の際にウィーンに亡命し、翌年ケルンに移る。そこでシュトックハウゼンらの現代音楽に触れ、前衛的な手法を身につけていった。

この曲は1953年につくられた11曲からなるピアノ作品の「ムジカ・リチュエルカータ」から、リゲティ自身が木管五重奏に6曲を抜粋・編曲したものである。亡命以前の作品の1つで、その際にそれらのほとんどは失われてしまったため、当時のリゲティを知る上で貴重な楽曲となっている。

ホルン 4年 佐藤 俊輝

J.イベル／木管五重奏のための「3つの小品」

ジャック・フランソワ・アントワヌ・イベルは、1890年フランスのパリで生まれた作曲家。4歳からピアノを始め、12歳頃作曲に興味を持ち勉強を始める。1910年、パリ音楽院に入学すると後の「フランス6人組」(20世紀前半にフランスで活躍した作曲家の集団)であるダリウス・ミヨーやアルテュール・オネゲルと同窓になる。イベルが「フランス6人組」に名を連ねなかったのは、第一次世界大戦中には海軍士官として従軍、戦争後はイタリアへ留学をし、パリにいる時期が少なかったことが大きいとされている。1930年頃からオーケストラ作品や映画音楽、室内楽曲が作曲されており、この曲も1930年に作曲されている。

第1曲目は、軽快でオーボエから始まるメロディは心弾むようなフレーズである。後にフルートとクラリネットがメロディに加わり、曲が進むにつれて音色の変化を感じられる。第2曲目は、フルートとクラリネットの二重奏で始まり、掛け合いながら非常に長いフレーズで美しく奏でられ最後は全員が加わり静かに終わる。第3曲目は、3拍子と2拍子が何度も入れ替わり、躍動感のある一曲となっている。

クラリネット 4年 笠 歌純